

日本心臓血管放射線研究会学術研究助成
学会報告記

氏名 田邊 裕貴

所属機関名(発表時) 愛媛大学医学部附属病院 放射線医学

発表学会名 Asian Society of Cardiovascular imaging (ASCI) 2013(展示発表)

学会開催年月日 2013年 8月 17日～ 18日

演題名 Dynamic myocardial perfusion assessment using 256-slice multi-detector computed tomography with adenosine triphosphate stress: Report of initial experience

優秀論文賞受賞 無

学会報告記(800字程度・写真1枚)

締切:2013年11月1日

◇本文

愛媛大学医学部附属病院 放射線科 _田邊 裕貴 _

2013年8月17-18日に中国のChina National Convention Centerで開催された、第7回ASCI 2013に参加させて頂きました。私は今年の4月に大学院に入学し、心血管領域のイメージングについては勉強を始めたばかりで、ASCIへの参加は今回が初めてになります。学会には世界各国からたくさんの参加者があり、日本からも多くの先生方が参加され、たくさんの演題が採択されていました。

今回のASCIでは、各国の著名な先生による各種心疾患におけるCT、MR、心臓核医学の有用性など各分野のレビューや、今後の展望など明快な講演が多く、英語能力に乏しい私ではありますが、非常にわかりやすく勉強になりました。特にDaniel S. Berman先生の講演は、「Future of Cardiac imaging」というタイトルで、心臓イメージングの最新の知見について講演され、心臓イメージングについて勉強をはじめたばかりで無知な私にとっては、今の世界最先端の研究はこれほどまで進んでおり、ここまでわかるのかと非常に衝撃的でした。また、Bon-Kwon Koo先生によるCT FFRについての講演も興味深い内容で、心臓CTで非侵襲的にFFRが計測できるようになる時代がそこまできているのかと驚くばかりでした。

私はポスター発表で、『256slice-MDCTを用いたATP負荷Dynamic CT perfusionによる心筋血流定量評価についての当院での初期経験』というテーマで発表させて頂きましたが、冠動脈CTA、心筋perfusion CTに関するこれまでの報告や現在進行中の大規模試験などについても多くの講演があり、一般演題のポスターも、どれも内容の濃いものばかりで、非常に勉強になるとともに刺激にもなりました。

レセプションパーティでは、円卓が用意され、本場中華料理や中国伝統芸能を味わうことができました。また大会後には、万里の長城に観光にも行かせていただきました。

今回、学会に参加させていただき、世界最先端の研究を知ることができ、日々の仕事・研究へのモチベーションをあげることが出来ました。次回のASCI 2014は韓国で開催されるとのことで、気持ちを新たに頑張っていきたいと思います。

最後に今回学会参加費を助成いただいた心臓血管放射線研究会の皆様から心から感謝申し上げます。

